

新たな年、新たな挑戦

1月6日、新年のはじまりを祝う『新春の集い』がジョイ・じょぐらで開催され、150名の参加者で賑わいました。

会場では、開会の挨拶として工藤町長から、『予想以上の人口減少に立ち向かっていかなければならない』とまちの現状が説明され、それに関連して、新たな産業の創出として進められている湯ノ岱地区のワイナリー設立や、子育て施策や人口減少対策の説明があり、『苦難に対して歩みを止めずに、成功体験を積み重ねながら共に挑戦していきましょう』との呼びかけがありました。

この後、石澤議長から乾杯の発声があり、集まった方々は新たな年の始まりを祝いながら、今年はどういう年になるのか思いをはせている様子でした。



110番を考える 江差警察による啓発イベント

1月8日、江差警察署が主催する地域の安全・防犯啓発のイベント『江差警察署フエスタ2017』がジョイじょぐらにて開催され、500名にのぼる溢れんばかりの来場者で賑わいました。イベントは、江差警察署員手作りの寸劇『実録！江差警察24時』から始まり、江差町にある架空のコンビニを舞台に、強盗と慌てる店長、駆けつけた警察官が現実に近いやりとりを通じて、110番の正しいかけ方や事件への対処の仕方などが分かりやすく伝えられました。

さらに警察の各種装備をパレコレ風に紹介した『ポリコレ2017』や、道警音楽隊とカラীগार्ド隊、そして上ノ国・江差両中学校吹奏楽部による合同演奏も行われ、一つ一つの催しに来場者は大きな拍手やアンコールを贈ってイベントを満喫した様子で、楽しみながら地域の安全と防犯を考える良い1日となりました。



火災・災害の被害、減らす努力を

1月4日、町内全ての消防団と婦人防火クラブが集まり、年の初めに防災と減災を誓う『上ノ国町消防団出初式』が開催され、約110名が参加しました。

本町では毎年、数件の火災が発生している状況ですが、上ノ国町消防団は消防署と連携して消火活動にあたり、昨年は5件の火災に活動しています。

そうした状況を前に、出初式の挨拶では、飛鳥正人団長から地域と連携しながら的確に対処することや、火災を発生させない減災・防災に努め、まちの安全を守っていかねばならないとの話がありました。



クリスマス彩る あたたかなキャンドルの光

12月24日、道の駅もんじゅ前においてワックスキャンドル点灯式がエゾ地の火まつり幹事会（小林豊会長）主催のもと行われ、親子連れや若者など約100名が参加しました。

イベント実施4年目となる今年は、町内で和菓子作りを得意とする方の協力を得て、来場者に配る『サンタクロースをイメージした練り菓子』などが用意されたほか、約100本のキャンドルが新調されるなど、イベント成功への取組みが続けられてきました。

そしてイベント当日、雪がちらつくなか、火を灯されたキャンドルは参加者の手によって運ばれ、暗かったもんじゅ周辺の道を照らし出しました。

